

## 令和5年度第4回合同教育研究会議議事概要

### 1 開催日時

令和5年7月12日 13時00分～14時13分

### 2 場所

本部棟3階 特別会議室

### 3 出席者

鈴木学長兼副学長事務取扱、亀田副学長兼研究・地域連携本部長、宮野副学長兼事務局長、猪股教育支援本部長兼高等教育推進センター長職務代理兼教学IRセンター長職務代理、三上学生支援本部長、橋本企画本部長、熊本国際教育研究部長、福島看護学部長、高橋社会福祉学部長、高田ソフトウェア情報学部長、高嶋総合政策学部長、川崎盛岡短期大学部長、松田宮古短期大学部長、宮本委員（学外委員：岩手大学人文社会科学部教授）

#### [事務局]

新沼事務局次長兼総務室長、関屋教育支援室長、高田学生支援室長、藤村研究・地域連携室長、佐藤企画室長、長谷川宮古事務局長、西川総務財務課長、八木主幹、伊藤主任主査

### 4 会議の概要

#### 議事録確認

前回会議6月14日の議事録（議事概要）については、原案のとおり了承された。

#### 審議事項

なし

#### 協議事項

なし

#### 報告事項（口頭報告）

##### （1）令和5年度海外研修の実施について

猪股教育支援本部長から、資料に基づき説明があった。

##### （2）岩手県立大学外部研究資金等受入状況について

亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。科研費採択率向上支援チームによる今年度の活動が始まっているため、科研費の申請書ができたら早めに提出し、支援チームによるチェックを受けてほしいとの補足説明があった。

これに関し、学長から、本学はハードウェア関係の学部がないことから金額は小さくてもよいので、積極的に応募してほしいこと、科研費の公募期間が早まっていることから、早めに申請書を作成して提出し、支援チームによるチェックを2回受けられるようにしてほしいとの発言があった。

- (3) 令和6年度科学研究費助成事業公募に係る学内説明会の開催について  
亀田研究・地域連携本部長から、資料に基づき説明があった。  
学長から、各学部等の中で積極的に周知してほしいとの発言があった。
- (4) 防災復興支援センター設立シンポジウム開催結果について
- (5) 令和5年度防災復興支援センターが取り組む研究課題等の決定について  
亀田研究・地域連携本部長から、2項目まとめて資料に基づき説明があった。
- (6) 令和5年度「新入生アンケート」及び「2年次生アンケート」の結果について  
橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。  
学長から、各学部等において、アンケートの結果をどう捉えるか議論をしてほしいとの発言があった。

(7) 令和5年度夏のオープンキャンパス（滝沢キャンパス）開催結果について

橋本企画本部長から、資料に基づき説明があった。新型コロナウイルス感染症拡大前のオープンキャンパスでは、どのイベントに行ったらよいかわからずに外で時間を潰している参加者が多かったが、今年度はそのような参加者が少なかったことから、参加者数としては減ったが、目的をもって参加した者が多かったのではないかと考えられること、今年度は保護者の参加も可としたところ、保護者説明会は1回目も2回目も満席であり、保護者も積極的であったとの補足説明があった。また、午前のイベントに参加者が集中し、昼前に帰る参加者が多かったことについて、新型コロナウイルス感染症の拡大により、学校行事は昼食を挟まずに午前で終えるパターンが定着していることも影響している可能性があるとの補足説明があった。

委員から、今年度は学校行事としてバスを借り上げて来場する県内高校が減ったこと、一方、県外の高校生はこれまで参加できなかった影響もあるのか、今年度は保護者と一緒に積極的に参加していたようであり、県外の者にとって貴重な機会となったこと、参加者が午前集中するのは新型コロナウイルス感染症の拡大以前から続く課題であり、これは休日に引率する教員の勤務時間も関係しているとの発言があった。

これに対し、橋本企画本部長から、昨年度行った事前申込みによる午前・午後の2部制は、参加者が偏らない方法のひとつとして、検討の余地があるかもしれないとの発言があった。

学長から、岩手県高等学校長協会との懇談会において、県内であっても遠方の高校は参加が難しいとの声があったことから、今後は、これまでの方法に加えてオープンキャンパスのオンデマンド配信などができることよとの発言があった。

これに対し、橋本企画本部長から、志願者確保のためのイベントはオープンキャンパス以外にも年間を通して行われているため、様々なイベントを連携させながらオンデマンド配信などの工夫も取り入れて開催できるよう検討していきたいとの発言があった。

委員から、看護学部では在学生在がオープンキャンパスの準備や当日の対応を行ったが、楽しみながら積極的に参加者と交流しており、対面開催の必要性を実感したこと、1回目の学部紹介では講堂が満席となり、学部紹介後に講堂の参加者がそのまま学部イベントに向かったことから、学部イベントが非常に混雑して各イベントへの振り分けがうまくできなかったこと、これらの課題をオープンキャンパ

ス連絡調整会議で共有した上で、次年度に向けて検討を行ってほしいとの発言があった。

**(8) 次世代育成支援及び女性活躍推進のための一般事業主行動計画に係る令和4年度実施状況について**

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。

委員から、目標2の数値目標に関し、男性教職員の育児休業取得率算定の母数について質問があり、新沼事務局次長兼総務室長から、育児休業制度の対象となる子を持つ男性教職員を母数としているとの回答があった。また、宮野副学長兼事務局長から、令和3年度は母数が2人で育児休業取得者は0人、令和4年度は母数が3人で育児休業取得者は1人であり、2年間の累計では母数が5人で育児休業取得者1人となるとの補足説明があった。

委員から、これらの取組は次世代法や女性活躍推進法といった個別の法律に基づくものではあるが、育児や女性活躍に特化した取組ではなく、働き方改革やワークライフバランスの取組の一部であるという認識で進めてほしいこと、一般事業主行動計画では数値目標の達成や制度を作ることで自体が目的化しがちであるが、意識の醸成を図ることが大切であり、当法人の一般事業主行動計画では、各目標に意識啓発や意識醸成の取組も掲げられているので、各部局のリーダーが主体となって進めてほしいとの発言があった。

学長から、このような計画を立てて取組を行っていることを、大学全体に浸透させなければならないこと、大前提としてダイバーシティの推進を掲げ、その中でワークライフバランスや女性活躍などの取組を行っていく必要があるとの発言があった。

**(9) ハラスメント防止対策に係る関係規程等の一部改正について**

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。ハラスメント防止対策委員会委員の増員については、外部の専門家を加えることも念頭に入れているとの補足説明があった。

学長から、ハラスメントの事案が発生した際に調査などを行う場合に、外部の専門家を必要があること、大学単独では事例が少ないため、高等教育コンソーシアムなどで共通の対応部署を作ることができればよいとの発言があった。

委員から、ハラスメントの種類は多様であり、当事者の関係性も職員同士、教員と学生など多様であることから、学内者だけで構成する委員会では対応が難しく、組織防衛に陥る可能性もあることから、外部の専門家を加えることは大切であるとの発言があった。また、近年は若者による性暴力が深刻化しており、これにどう対応していくか、学生の懲戒などについても留意の上で検討する必要があるとの発言があった。

**(10) 令和5年度ハラスメント防止対策研修会の開催について**

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。講師について、例年同じ講師に依頼しているとの意見が本部長会議であったことから、次年度の検討の際には、そういった意見も念頭に検討するとの補足説明があった。

**(11) 令和5年度夏季の省エネの取組について**

新沼事務局次長兼総務室長から、資料に基づき説明があった。昨年度、滝沢キャ

ンパスの省エネ最適化診断を受けたことから、その結果を踏まえてトイレ便座の温度設定を新たな取組として追加したとの補足説明があった。

学長から、良い取組があれば、提案してほしいとの発言があった。

#### 報告事項（資料報告）

- (1) 令和4年度FD・SDの実績について
- (2) 令和5年度『ICTサポート』の開設について
- (3) 令和5年度「岩手県知事講話」の公開（遠隔配信）について
- (4) 令和6年度編入学試験（ソフトウェア情報学部）選抜結果について
- (5) 大学院入試（社会福祉学研究科学内推薦入試、ソフトウェア情報学研究科第一次募集）出願状況について
- (6) 令和5年度 盛岡さんさ踊りへの出演について
- (7) 令和5年度第1回就職支援連絡調整会議の開催結果について
- (8) 令和5年度「コンバージェンス@いわてイノベ」の実施について
- (9) 国の修学支援新制度に係る機関要件について（報告）
- (10) 「令和5年度第2回職員衛生委員会」の結果について

#### (6)について

三上学生支援本部長から、次のとおり資料修正の説明があった。

資料 82 ページ

2 その他 (3)

誤：令和4年度は参加しない

正：令和5年度は参加しない

#### (8)について

亀田研究・地域連携本部長から、企業学群構想の取組の推進に向けて、本学とイノベ企業とのマッチングを促進して連携を図るため、ワークショップを学部ごとに行うことを計画していることから、開催日などについて各学部長に別途相談するとの補足説明があった。

#### その他

なし